

第5回「東海財界倶楽部」例会開催

昇龍道プロジェクトの 今後の展開



野俣光孝中部運輸局長

平成二十六年十月二十八日、第五回「東海財界倶楽部」例会が開催された。同会は東海地方で活躍する経営者を中心とした異業種交流会。当日は中部運輸局長野俣光孝氏が、演題を「昇龍道プロジェクトの今後の展開」と題して講演。親睦会などが行われた。

平成二十六年十月二十八日、ホテルオークラレストラン一四階「光の間」(名古屋市中区東桜一―一四―二五テレビア)にて、第五回「東海財界倶楽部」例会が開催された。

「東海財界倶楽部」は、愛知県・岐阜県・三重県に拠点を有するトップ経営者を中心とした異業種交流会。経営者同士の知識・情報交換および意識向上の機会を設けることを目的とする。

第五回の例会となる当日は、午後六時から受付を開始すると共に出席者が続々と到着。正会員・準会員を含め中部地区で活躍する経営者らが出席。今回は新会員などの初参加者が比較的多い集まりとなった。午後六時三十分からの第一部では、国土交通省中部運輸局の野俣光孝局長を講師に迎え、演題を「昇龍道プロジェクトの今後の展開」として講演。中部北陸九県の知名度向上を図り、主に中華圏から

インバウンドを推進する「昇龍道プロジェクト」に関し、主に名古屋における課題について語った。

野俣局長は鉄道各線のアクセス向上やセントレア専用ホーム新設による名古屋駅の利便性向上への早期取り組みの必要性を強調。また、バスや店舗の営業時間延長によるナイトライフの充実、免税店の許可取得やショッピングフェスティバル誘致、旅館やホテルのおもてなし充実などを提案。

最後に、あらゆる日本を体験でき、リピーターに好まれる中部の特性について語り、「受入マインドをもって頑張つて頂きたい。是非ご支援を」と結んだ。

五分の休憩を挟んで、午後七時頃からの第二部では、セピアコーポレーション代表取締役前田義和氏の音頭で乾杯。ビュッフェスタイルによる立食形式での中華晚餐を交えた親睦会が和やかに行われ、最後は森本調査設計代表取締役森本拓也氏による一本締めで中締めが行われた。

次回の東海財界倶楽部は、十二月に忘年会として開催予定。